



平成 29 年 4 月 27 日

各 位

会社名 新京成電鉄株式会社
代表者名 代表取締役社長 眞下 幸人
(コード番号 9014 東証第 1 部)
問合せ先 経営企画室経営計画担当課長
内藤 智喜
(TEL 047-389-9918)

中期経営計画(2016 年度～2018 年度)における 2017 年度計画について

当社グループでは、2016 年 4 月に開示いたしました中期経営計画 (S3 計画、2016～2018 年度) に基づき、諸施策に取り組んでおります。

今般、2016 年度に実施した取り組みをご報告するとともに、2017 年度に推進する諸計画につきましてお知らせいたします。

《S3 計画について》

長期経営計画 (2010～2021 年度) の第 3 ステップとなる 2016 年度からの中期経営計画 (S3 計画) は、「沿線価値向上・事業運営体制確立」の期間と位置づけており、「安全管理体制の再構築」・「鉄道輸送需要の創出および不動産の新たな収益源確保」・「業務効率化施策の実施」の 3 つを基本方針とし、鉄道部門では安全・安心の強化につながる施策を重点的に推進し、不動産部門では収益基盤強化に資する新規物件の開発を推進しておりますほか、沿線地域と企業のブランド力向上につながる施策を実施しております。

以 上

中期経営計画

S3計画（2016～2018年度）

2017年度計画

《沿線価値向上・事業運営体制確立》



(9014)



1. 中期経営計画「S3計画」概要・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 中期経営計画「S3計画」基本戦略と主な施策・・・・ 3
(2016年度中の取り組みと2017年度の実施計画)
3. 2017年度数値計画について・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

1. 中期経営計画「S3計画」概要

S3計画の基本方針・基本戦略

将来予測されている沿線人口の減少および少子高齢化の進展、また、安全のための設備投資増加による費用増に耐え得る事業運営体制の構築を、このS3計画期間で目指していく。

S3計画 テーマ

沿線価値向上・事業運営体制確立

S3計画 基本方針

1. 安全管理体制の再構築
2. 鉄道輸送需要の創出および不動産の新たな収益源確保
3. 業務効率化施策の実施

S3計画 基本戦略

- ① 安全・安心の強化
- ② 収益源確保への取り組み
- ③ 成長できる業務体質への転換
- ④ 地域と会社のブランド力向上

2. 中期経営計画「S3計画」基本戦略と主な施策 (2016年度中の取り組みと2017年度の実施計画)

基本戦略① 安全・安心の強化

近年、輸送の安全に対する社会的要請がより一層強まっていることから、安全性・信頼性の更なる向上に向けた施策を推進し、安全輸送の完遂を目指す。

安全管理体制の再構築

- 運輸安全マシメイト制度に沿った諸施策の推進
- 業務組織の一部改正（2016年6月実施）

鉄道施設や設備の保安度・信頼性向上

- 新型ATS（C-ATS）化の推進
八柱～松戸間（2017年3月完了）
鎌ヶ谷大仏～くぬぎ山間下り線（2017年度下期完了予定）
くぬぎ山～八柱間（2017年度下期完了予定）
- 電力管理システムの更新（2016年6月運用開始）
- 駅舎耐震補強の推進
八柱駅（2017年2月完了）
五香駅（2017年度上期着手、2018年度上期完了予定）



八柱駅舎耐震補強



- 土留擁壁の改良
前原～薬園台間上り線（2017年度下期完了予定）
- 車両基地信号保安設備導入（2017年度下期完了予定）

連続立体交差化事業

- 鎌ヶ谷市内連続立体交差化工事（鎌ヶ谷大仏駅～くぬぎ山駅間）下り線高架切替
(2017年度下期実施予定)



新鎌ヶ谷駅付近

バリアフリー化設備等整備事業

- 八柱駅北口エレベーター新設（2017年度上期稼働開始予定）
※バリアフリー化2ルート目
- 駅プラットフォーム嵩上げの推進および内方線付点状ブロック新設の推進
習志野駅（2017年3月完了）
二和向台駅（2017年度下期完了予定）



習志野駅プラットフォーム

基本戦略② 収益源確保への取り組み

将来予測されている生産年齢人口減に対し、沿線人口増加のための積極的な旅客誘致施策を実施し、新たな輸送需要の創出を図るとともに、不動産業においても新たな収益源となる物件を開発することで、経営基盤の強化を図る。

沿線活性化と人口増に向けた取り組み

- 沿線外からの転居を目的としたネット広告の展開
- 旅客誘致のための各種イベントの開催
- 沿線地域への社会貢献事業の推進



インターネット広告の実施



千葉ゾーンのイトーヨーカ堂 企画

新規収益物件の開発

- 新津田沼地区開発計画の策定
- 自社保有土地への新規賃貸物件開発による新たな収益源の確保

佐倉市西志津土地開発
(2017年1月オープン)

- 収益賃貸物件の取得



バス事業における取り組み

- 既存路線の見直しや新規路線展開による収益力の強化



深夜急行バス西船橋駅乗入れ
(2016年12月開始)

自社保有資産の売却

- 八千代市吉橋分譲土地売却



2016年度
第1期(25区画) 完売

2017年度
第2期(22区画) 販売

その他事業における取り組み

- コンビニ事業における収益性の強化と店舗の拡充
八柱北口店オープン、三咲店移転拡張(2016年度実施)
鎌ヶ谷大仏店オープン(2017年度実施予定)

基本戦略③ 成長できる業務体質への転換

安全・安心の強化のための設備投資増加による費用増に対し、経費削減につながる効率化施策を実施していく。

永続的な利益確保に向けた効率化施策の実施

- 電車「フルSiC適用VVVFインバータ装置」への更新による大幅な省エネルギー化（2016年度：1編成実施 2017年度：1編成実施予定）
- 照明のLED化による使用電力量の削減（2016年度：5駅実施 2017年度：3駅実施予定）
- ロングレール化の推進（五香～常盤平間、2017年度上期完了予定）

三咲駅照明LED



基本戦略④ 地域と会社のブランド力向上

沿線エリアの情報や魅力を様々な媒体で発信することにより、当社の知名度アップを図るとともに、サービスの向上もあわせて実施していくことでブランドイメージを向上させ、住んでいたい・住んでみたい魅力的な沿線づくりを行う。

お客様のニーズに応えたサービスの提供

- 駅案内看板の更新（多言語対応）（2016年度：7駅実施 2017年度：6駅実施予定）
- 駅トイレリニューアル化（洋式化）の推進（2016年度：6駅実施 2017年度：6駅実施予定）
- 電車内装の更新（2016年度：1編成実施 2017年度：1編成実施予定）

沿線生活サービスの向上

- 高齢者、保育施設の展開（2016年4月に2駅で保育所オープン）

企業価値の向上

- コーポレートガバナンスの強化
- 広報活動の充実による沿線地域の魅力の発信

ブランドイメージ戦略の推進

- 車両塗装のニューカラー化の推進（2016年度：6編成実施）（2017年度：5編成実施予定）
- 三咲駅一部リニューアル（2016年度実施）



8000形ニューカラー化

3. 2017年度数値計画について

2017年度数値計画（連結）

◆数値計画

	2016年度 実績	2017年度 計画	増減	主な増減要因	2018年度 目標値
営業収益	213.3億円	210.1億円	▲3.2億円	連結子会社（ｽﾌｵｯｸ・ｻﾙﾋﾞｽ）の決算期変更 （2016年度は15ヶ月決算）	209億円以上
営業利益	32.9億円	32.7億円	▲0.2億円		33億円以上
経常利益	36.4億円	34.5億円	▲1.8億円	持分法投資利益の減	—
親会社株主に帰属 する当期純利益	25.6億円	24.2億円	▲1.4億円		25億円以上

◆セグメント別数値計画

	2016年度 実績	2017年度 計画	増減	主な増減要因	2018年度 目標値
運輸業					
営業収益(鉄道事業)	113.3億円	113.2億円	▲0.0億円	運輸収入の増、雑収入の減	営業利益 16億円以上
営業収益(バス事業)	46.8億円	46.9億円	0.0億円		
営業収益(合計)	160.2億円	160.1億円	▲0.0億円		
営業利益	16.1億円	15.4億円	▲0.7億円	動力費・燃料費の増	
不動産業					
営業収益	36.3億円	35.5億円	▲0.7億円	分譲土地販売区画の減	営業利益 16億円以上
営業利益	15.6億円	16.2億円	0.5億円		
その他事業					
営業収益	18.6億円	16.0億円	▲2.6億円	連結子会社（ｽﾌｵｯｸ・ｻﾙﾋﾞｽ）の決算期変更 （2016年度は15ヶ月決算）	—
営業利益	0.8億円	0.7億円	▲0.0億円		

<注意事項>

本資料に記載されている情報のうち、過去の歴史的事実以外のものは将来の見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいたものとなっております。実際には様々な要因により異なる業績結果となる場合があることをご了承ください。